

資料1 令和4年11月9日 政治倫理の確立と選挙制度に関する特別委員会 における、天畠大輔委員に対する杉田水脈政務官の答弁

天畠大輔君：杉田政務官は2018年、『新潮45』へ「LGBTへの支援の度が過ぎる」を寄稿し、「彼ら、彼女らは子供をつくらない、つまり生産性がないのです」と言い切りました。生産性のない者は行政の支援に値しないと断ずる発言に、私は重度障害を持つ当事者として恐怖を覚えました。今、あなたと対面することにすら恐怖を感じます。（中略）

あなたの発言は、多くの障害者とLGBTQの当事者に恐怖を与え、深く傷つけたのです。その認識はありますか。認識があるなら、撤回と謝罪をしてください。

杉田大臣政務官：御指摘の寄稿において、不用意に「生産性」という表現を用いるなど、拙い表現によって傷つけられた方がいらっしゃることを重く受け止めております。

雑誌の寄稿につきましては、当事者、そして障害を持つ方々の人権を否定するつもりも、偏見を持って差別する意図も一切ございませんでした。

また、寄稿内において障害者や高齢者、難病の方、子供を持っておられない方々を差別するような表現や言及は一切しておりません。

天畠大輔君：あなたがかつて発した言葉が、これからも当事者に恐怖を与え続けます。

先ほど石川理事がおっしゃったように、重く受け止めることと撤回、謝罪は違います。撤回、謝罪が必要です。

杉田大臣政務官：私は、その論文の中にも、中でも、そしてその論文を書く以前、それから書いた後も、一切、障害者や、先ほども申しあげました障害を持つ方々や高齢者や難病の方、子供を持っておられない方々を差別するような言及は一切しておりませんし、そういう考えも一切持っておりません。また、論文の中にもそういった内容は一切書いておりません。（後略）